

移住促進型観光推進事業について

愛媛県 経済労働部
観光国際局 観光交流課

観光まちづくり係長 濱松 一良

1 はじめに

愛媛県では、観光交流課が窓口となり団塊の世代をはじめ田舎暮らしに関心のある都市生活者を南予地域に呼び込むため、今年度から「移住促進型観光推進事業」に取り組んでいる。

観光を切り口とした移住促進の取り組みは、全国的にも珍しく、本稿では、南予地域における移住促進型観光（以下「移住観光」）の推進について紹介する。

2 取り組みの経緯

団塊の世代が大量退職を迎える2007年を前にして、都市部では、大都市圏の住民を中心に「田舎暮らし」に対する憧れや関心は大変高いものがあると言われている。

一方、人口減少時代を迎え、地方では、地域コミュニティの維持・存続そのものが強く危惧される状況にある。

本県においても、県内人口は減少しており、とりわけ、南予地域では、昭和60年以降20年間で約7万人もの減少となっている。

また、南予地域は、大手企業の撤退等による製造業の衰退と公共事業の減少に伴う建設業の不振に加え、基幹産業である農林水産業の低迷などにより地域活力が減退しており、この南予地域をいかにして活性化さ

せるのが、喫緊の課題となっている。

県では、このような課題に対処するため、観光を切り口とした移住促進を図り、地域外からの人材・文化・技術等の流入や交流拡大を促進することにより、南予地域の活性化に取り組むこととした。

3 事業概要

「移住促進型観光推進事業」については、南予地域の市町と協力して、移住相談窓口の設置や受け入れ体制の整備を行うとともに、県ホームページ内に南予地域移住情報発信サイトを開設するほか、全日本空輸株式会社（以下「ANA」）と提携して、ANAグループの広報媒体や流通網等を活用した全国規模の広報宣伝を行い、南予地域の風土・人・食の魅力を体験して味わってもらおう移住体験モニターツアーなどを実施している。

南予地域は、温暖な気候、お遍路文化に育まれた温かい人情、四季折々の豊かな自然と多様な歴史文化に加え、みかんや真珠をはじめ農林水産物の宝庫である。また、ここには、昔ながらの風情を残す町並みや里山、日本の伝統を伝える古民家が多く存在し、懐かしい風景と心安らぐ時間がある。

この事業では、生活目線での体験型観光を通じて、南予地域に都市生活者を呼び込むことを目指している

が、移住は簡単に決断できないことから、都市生活者には、「第1に、愛媛・南予を知ってもらい、関心をもってもらう」「第2に、期間限定の“おためし暮らし”を体験し、南予の良さを実感してもらう」「第3に、地域の方との交流を通じ、南予に住みたいと確信が得られたら、移住・定着してもらう」といった3つの階段を、観光の入り口から気軽に昇っていただきたいと考えている（図1）。

4 市町との協働推進

移住観光の推進については、直接移住希望者と接することとなる地元市町の主体的な取り組みが不可欠であることから、県では、次の考え方にに基づき、意欲ある市町と連携して取り組んでいる。

【協働推進の基本的な考え方】

- ①移住希望者の誘致による交流拡大を通じ、人材・文化・技術等の流入促進に努める。
- ②田舎暮らしに関心のある都市生活者のニーズに対応した効果的な情報発信を行う。

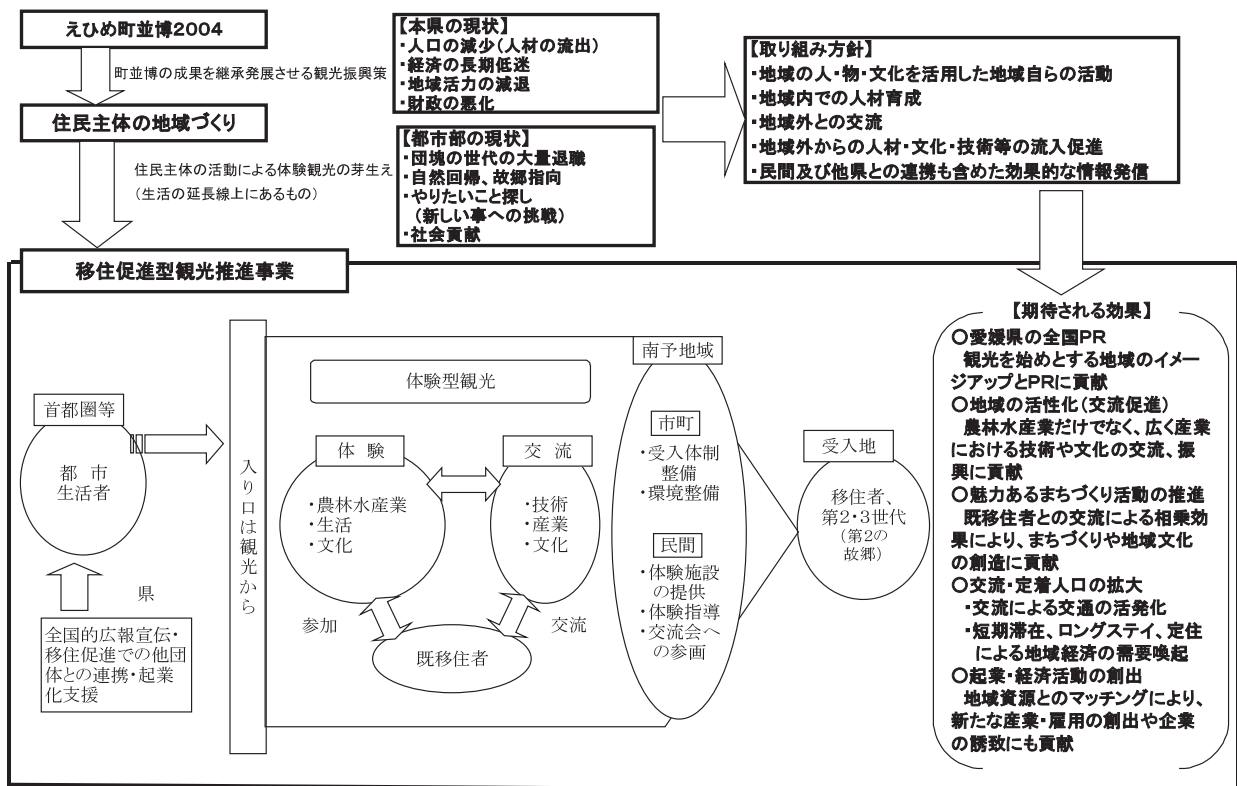
- ③移住促進に向けた地域ならではの魅力づくりや受け入れ体制の早期整備を図る。
- ④官民連携による取り組みを促進し、新規ビジネスの創出につなげる。

【県と市町の役割分担】

◆県の役割

- ①愛媛・南予の多彩な魅力を発信する。
四季を通じた、又は移住希望者の趣向に応じた広報宣伝活動等により、多彩な魅力を発信するとともに、愛媛が好き、南予に滞在したい・住みたいといった愛媛・南予ファンを組織化し、継続的に情報発信を行う。
- ②移住体験モニターツアーの実施等を通じ、様々な滞在・移住形態を提案する。
短期又は長期滞在、季節滞在、期間限定移住、定住等の多様なニーズを満たす滞在・移住形態を提案する。
- ③市町や民間企業等の意欲を引き出し、新規ビジネスの創出に努める。

図1 移住促進型観光推進事業の概念図



◆市町の役割

①移住促進に向けた地域ならではの魅力づくりや受け入れ体制の早期整備を図る。

地域に暮らす移住者等の意見を踏まえた地域の魅力づくり・磨き上げを加速化し、生活関連情報を含めた地域の魅力を発信する。また、地域に合った滞在・移住形態の検討と受け入れ体制の早期整備を図る。

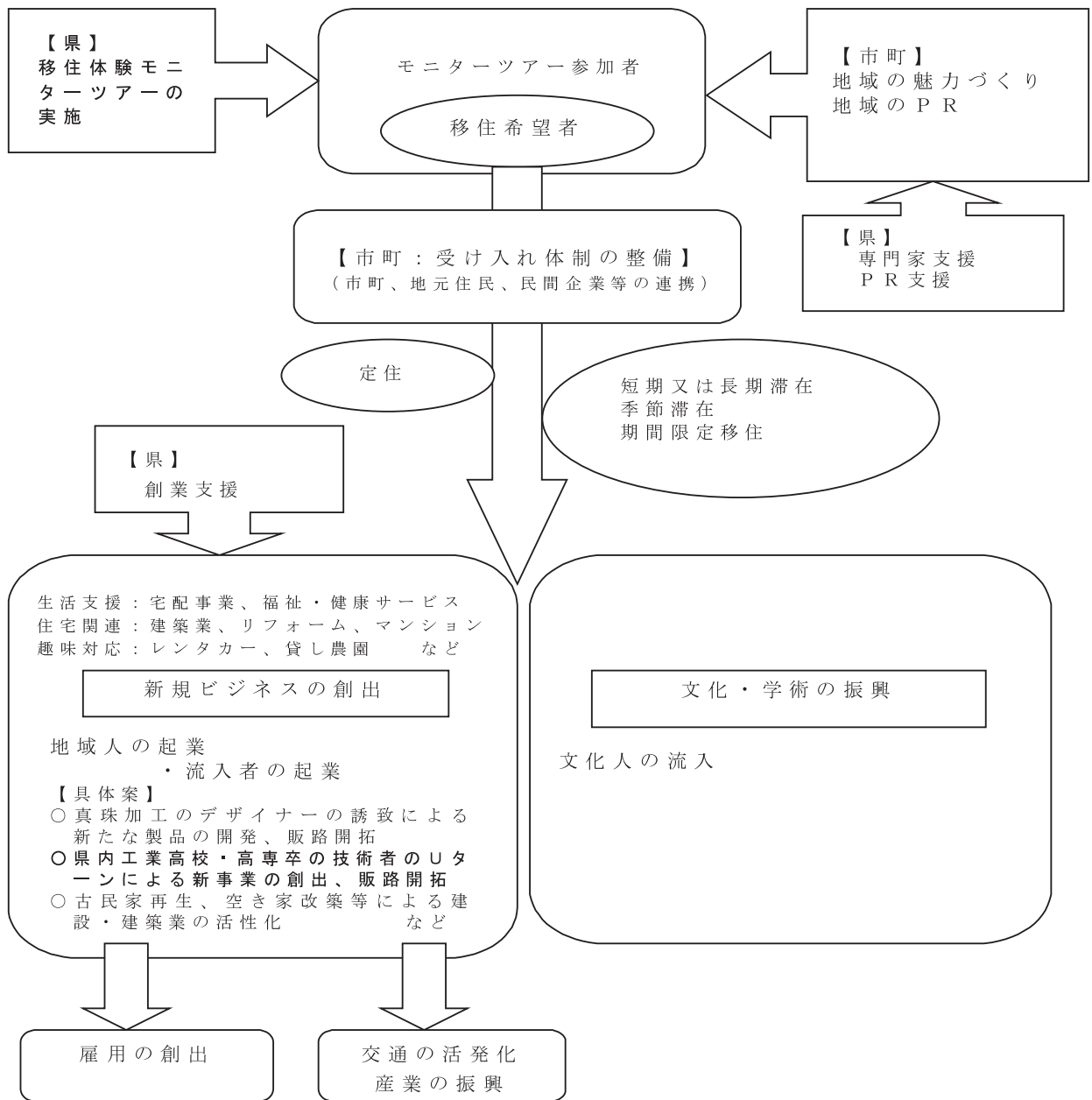
②地元住民・民間企業等の参画を促す。

地域の魅力づくりや交流拡大に向けて、地元住民の参画を促進する。また、新規ビジネスの創出に向け、民間企業等の活動の活性化を促進する。

③競争と連携の視点を持って取り組む。

地域間競争とともに、コストパフォーマンスを考察した「連携(協働)」による取り組みを推進する。

図2 人材・文化・技術等の流入促進のイメージ



5 推進体制

移住観光を円滑に推進するため、ANAと提携するとともに、南予の市町と協働で、次のような推進体制の整備に努めている。

市町においては、移住促進チーム（同等の機能を有する既存組織でも可）を組織し、必要な事項について企画提案を行う。これを受けて、重要事項決定機関（首長等により構成、なお同等の機能を担う既存組織があればこれを準用）が企画提案を吟味し、事業を造成・推進する体制を整備する。

【移住促進チーム】

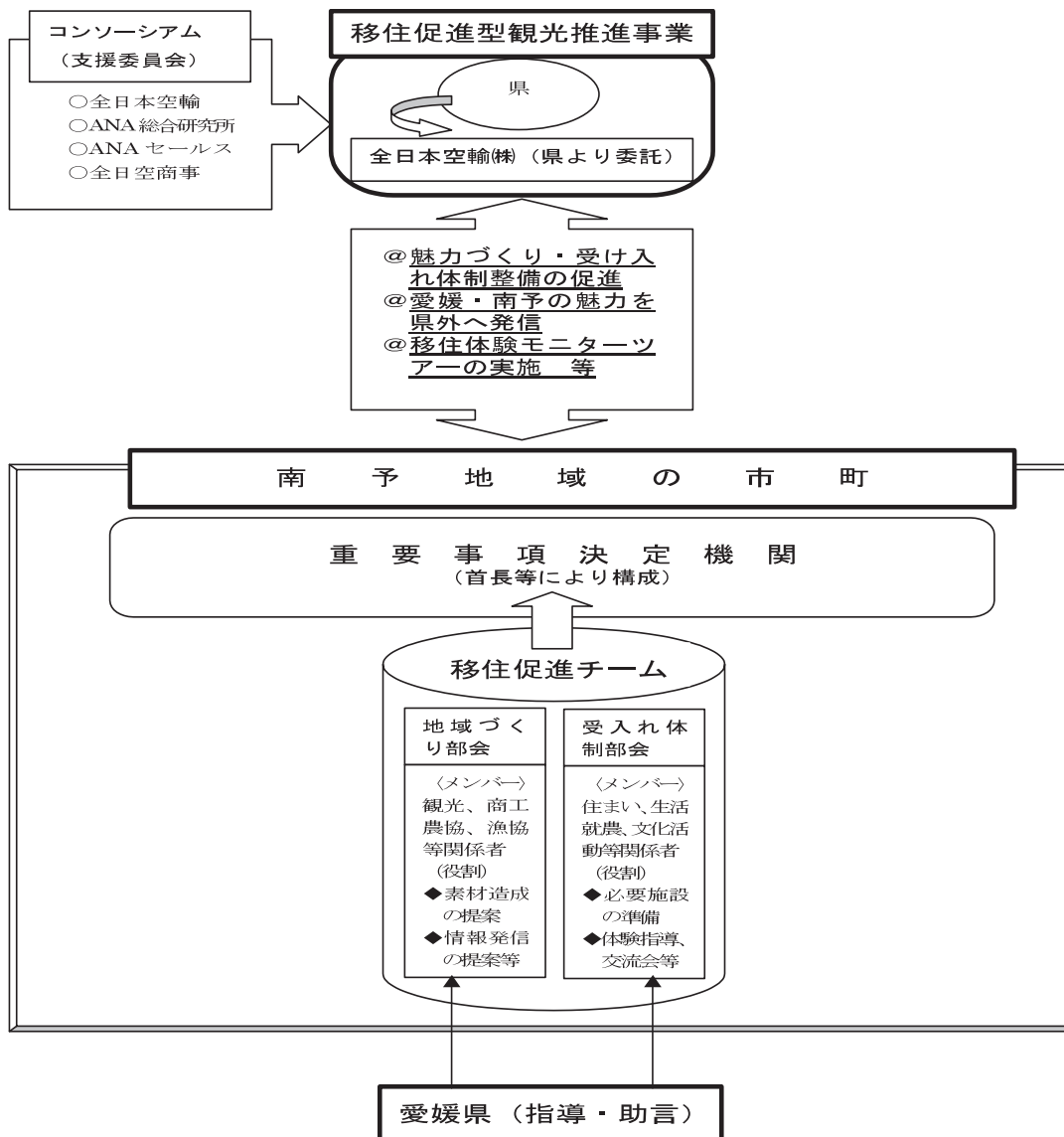
①地域づくり部会（同等の機能を有する既存組織でも可）

移住希望者が滞在したい、住みたいと思うような地域の魅力づくり（素材の造成など）及びその情報発信に関する企画提案を行う。

②受け入れ体制部会（同等の機能を有する既存組織でも可）

地域に滞在し住むために必要な情報（滞在・体験施設、医療・福祉、交通など）の収集・提供、必要な施設の準備、体験指導、移住者との交流会の開催などに関する企画提案を行う。

図3 推進体制



6 今年度の取り組み

(1) 事業推進に係る受け入れ体制の整備

本事業の推進にあたり、平成18年4月から南予9市町の市長・町長及び担当者へ説明を行い、移住観光への理解と主体的な取り組みを働きかけた。

また、5月には、各市町に対し、移住観光の対応窓口や責任者について調査するとともに、市町が作成する移住情報発信サイトの共通フォーマットを提示して移住関連情報に関する調査を実施した。また、県及び各市町の担当者が事業の推進体制について協議するとともに、移住観光にかかる県と市町の役割分担と協働推進について確認した。

これらの準備期間を経て、7月には、企画コンペにより本事業の委託先に決定したANA、県及び市町の担当者が一堂に会して、移住体験モニターツアーの実施に係る受け入れ体制整備推進連絡会議を開催した。この会議では、今後の事業推進スケジュールを確認するとともに、ツアーの実施にあたり、移住者との交流会開催の可能性、参加者の受け入れ可能な滞在施設、提供するサービス、視察物件等について協議するとともに、市町の企画提案を受け、ANA担当者がツアー商品の造成に向けた現地調査を実施した。

(2) 移住相談窓口の設置

田舎暮らしに対する関心はあっても、異なる環境や生活に対する不安と情報不足のため、なかなか移住まで踏み切れないでいる都市生活者に対し、どこまで細やかな対応ができるか、また、地域の個性を磨き上げ、どこまで惹きつけることができるかが重要なポイントとなる。このため、県及び南予各市町に移住相談窓口を設置し、具体的な相談に対応している。

これにより、移住希望者が一つの窓口で多方面の問い合わせや情報収集ができるようになるとともに、継続的なケアが可能となった。

県及び各市町の移住相談窓口及びこれまでの移住に関する相談件数（11月末現在）は次のとおりである。

(3) 移住情報発信サイトの開設・運営

南予の多彩な魅力を発信するため、県ホームページ内に、南予地域移住情報発信サイト「南予で田舎暮らしーおためし移住ー」を9月1日に開設した。（南予の各市町も市町ホームページ内に移住情報発信サイトを開設し、相互にリンクすることで市町が最新情報を更新できる仕組みとした。）

このサイトの特徴としては、南予9市町の移住相談

【移住相談窓口及び問い合わせ件数】

自治体名	窓口名	責任者	連絡先	相談件数
愛媛県	観光交流課（県外は東京・大阪両事務所、旬彩館対応）		089-912-2492	14件
内子町	町並・地域振興班	中岡・黒澤	0893-44-3790	7件
大洲市	商工観光課	丸山・矢野	0893-24-2111	1件
八幡浜市	政策推進課	河野・西村	0894-22-3111	1件
伊方町	商工観光課	清水	0894-38-2654	2件
西予市	商工観光課	宇都宮・中宇禰	0894-62-6408	3件
宇和島市	商工観光課（雇用創造室）	大塚・藤田	0895-24-1111	10件
鬼北町	産業課	芝・岡部	0895-45-1111	1件
松野町	ふるさと振興課	友岡・古谷	0895-42-1112	0件
愛南町	商工観光課	竹田	0895-72-7315	6件
合計				45件

HPサイト画面
(www.pref.ehime.jp/h30200/iju/)



11月末現在のアクセス数は、14,500件を超える。

窓口や責任者（名前と連絡先）を表示するとともに、移住希望者が気軽に相談できるように、担当者の顔写真やコメントを紹介している。また、「自然、景観、食にこだわり暮らす」「安心、元気、便利にこだわり暮らす」「趣味や娯楽などにこだわり暮らす」といった移住希望者の趣向に応じた具体的な『こだわり』からも検索することができ、さらに移住への動機付けともなる短期滞在や中・長期滞在、季節滞在など多様なニーズにきめ細かく応えるため、『おためし移住』情報として、3つのおためしプランや中・長期滞在向けの宿泊施設を紹介するとともに、不動産、就農、地域活動など移住に必要な情報、観光情報などのおすすめ情報についても紹介している。

また、随時、移住体験モニターツアーや移住説明会の開催等の最新情報を掲載するとともに、メールマガジンも配信しており、同ホームページ内の「メールマガジン受付“南のふるさと便り”」でメルマガ読者を募集している。

(4) 全国規模の広報宣伝の実施

団塊の世代をはじめ幅広い年齢層の都市生活者に広く南予の情報を知ってもらえるよう、ANAと提携して、

- ・ANA広報誌「SORANA」「翼の王国」

SORANA掲載記事



- ・ANA旅の情報サイト「翔年の時間」
 - ・シニア向け新聞「定年時代」「フロンティアエイジ」
- など各種媒体を活用した全国規模の広報宣伝を行っている。

(5) 全国規模の移住フェア等を活用したPR

10月14日、東京都大手町のサンケイプラザで行われた「ふるさと回帰フェア2006」（NPOふるさと回帰支援センター主催）に参加して、移住説明会やアンケート調査を実施するとともに、みかんなどの特産品や観光パンフレットの配布を通じて、愛媛・南予の魅力をPRした。

「愛媛・南予（なんよ）で田舎暮らしーおためし移住ー」の本県ブースを訪れた約1千3百人の参加者のうち、約100人に対して移住説明会を実施した。説明会では、南予の魅力や移住体験モニターツアーのPRを行い、参加者に対し、「短期滞在型のツアーによる体験型観光をきっかけに、中・長期の滞在施設を使ったおためし暮らしを経て、その地域に住みたいと思う気持ちが確信に変わったなら移住して、地域の活性化に一役買っていただきたい」と呼びかけた。

参加者は、本県出身の方や真剣に移住を考えている方からちょっと関心のある方まで様々であったが、「災害のないところが良い」「寒いところよりは温か

いところに住みたい」「ネット環境が整っていないと滞在はできない」「交通アクセスに関する情報が欲しい」「南予が魅力あるところだと分かったが四国は遠い」などの意見や要望をいただいた。

また、10月28日・29日に神戸市六甲アイランドで行われた「ニッポン全国“田舎”フェア」(財団法人都市農山漁村交流活性化機構〔まちむら交流きこう〕主催)に参加して、本県ブースを訪れた約7百人の参加者に対し移住体験モニターツアーのPRを行うとともに、このうち約40人を対象に、個別相談及びアンケート調査を実施した。

会場では、本県出身者や仕事で以前本県に住んでいた人に多く出会い、本県にゆかりのある方が関西方面には多く在住していることを実感しながら、U・Iターンをと呼びかけた。

参加者からは、「おためし体験・おためし暮らしの試みは興味深い」「(HPを見て)ボランティアや生涯学習の情報を盛り込むなど、もっと充実させる必要がある」「空き家や農地の情報がほしい」「農林水産業の現地研修制度に関する情報がほしい」などの意見や要望をいただいた。

さらに、「U・Iターンフェア(東京)」「新・農業



ふるさと回帰フェア



ニッポン全国“田舎”フェア

人フェア(東京・大阪)」をはじめ、東京・大阪等で開催されたイベントや会議などで移住観光をPRするとともに、関東・近畿・京都・中部・高知・広島の各愛媛県人会会員に対し、モニターツアーの募集パンフレットを配布するなどのPR活動を行った。

(6)移住体験モニターツアーの実施

11月下旬から来年3月にかけて、南予9市町を3コースに分け3泊4日の行程で、3回の移住体験モニターツアーを実施し、参加者に対してアンケート調査を行うこととしている。

【モニターツアーの概要】

①募集対象 関東・近畿の移住希望者等

②行程及び参加者

宇和島・松野・鬼北コース(11/25～28)

4組9名

大洲・内子・伊方・八幡浜コース(12/2～5)

6組9名

西予・愛南・宇和島コース(3/10～13)

ツアーの特徴は、南予らしい体験型観光に加え、市町による説明会、移住者を含む地域住民との交流会、生活に必要な施設(病院、スーパー、住宅分譲地)や古民家の視察を盛り込んでいるところにある。本稿では、第1回ツアー(宇和島・松野・鬼北コース)を紹介する。

【1日目】

宇和島市内の病院やスーパーマーケットなど生活関連施設をバスで周遊。各科病院が建ち並ぶ通称“病院通り”には、都会で暮らすツアー参加者も驚いた様子。

次に、海の入り江が広がり、近くには海水浴場もある大浦地区で、90年近い歴史を持つ古民家「和田邸」を視察。「田舎暮らし」と聞くと、一度は試してみたいのが古民家生活。都会では、古民家そのものが希少だが、南予では比較的そこかしこに古民家を見かけることができる。和田邸は、四国電力(株)宇和島支店が取り組んでいる「古民家再生プロジェクト」に参加している工務店により、ご主人の記憶そのままに生まれ変

わったとのこと。和田さん夫婦は、これからの人生、地域に役立つことができると、この家を平成19年中に短期滞在施設として活用する予定。元気な和田さんの奥さんは、「この地域には、住まいとして活用できる古民家がたくさんある。古民家生活の希望があれば是非ご検討を」と参加者に呼びかけた。

宇和島市・松野町・鬼北町の合同説明会では、各市町の担当者が、季節の楽しみや交通機関の情報、医療・福祉施設や買い物などの暮らしの情報、公民館を拠点とした地域コミュニティ活動や参加・学習できる教室・講座の情報のほか、公共料金や段畑オーナー制度、住宅地の地価なども紹介。「釣るなら、耕すなら、文化なら宇和島」「森の国松野町で共に支え合い、共に楽しみませんか」「森と水辺と田園の広がる心温まるまち鬼北へ」とアピールした。

夜は、司馬遼太郎が愛した木屋旅館で、移住者（Jターン）を含む宇和島市住民との交流会が開催され、食改善グループの方々が作った鯛そうめんやふくめん、さつま汁、ふかの湯ざらし、じゃこ天など海の幸の郷土料理を囲んで、意見交換を行った。



古民家「和田邸」の視察



市町による説明会

【2日目】

あいにくの雨にもかかわらず、段畑を守ろう会の松田副会長のガイドで、宇和島市「遊子の段畑」を見学。先祖代々築き上げた段々畑の景観にツアー参加者は大いに満足した様子。

その後、土居真珠で船からの真珠養殖場見学や真珠貝の核入れ・玉出しの見学と一部体験。次に、南四国ファームでみかん狩りとみかん搾りを体験。ツアー参加者からは「初めて体験する」との声も。



真珠貝の核入れを見学



みかん畑でみかん狩り

【3日目】

紅葉の中、松野町森の国ロジから雪輪の滝まで滑床溪谷をトレッキング。「今度は春か夏にまた来てみたい」と言う参加者もあった。

一汗かいた後は、目黒地区の方が、目黒の新米を薪で炊いたご飯に、アメノウオの一夜干しとじゃこ天ならぬ「アメノウオ天」などの昼食を食べた後、広見川沿いにある松野町の住宅分譲地を見学した。

次に、そうめん流しで有名な安森洞の近くにある鬼北町の旧農家生活体験施設「ふる里の家」を見学。地域の方々の温かいお茶のもてなしを受けながら、農家

生活などについて説明を受けた。

続いて、鬼北町のアルコール工場跡地で計画されている住宅分譲予定地を見学。また、町内の医療・福祉、商業施設などをバスで周遊した後、松野町の虹の森公園にある森の国ガラス工房でガラスの絵付け体験を行った。

夜は、松野町・鬼北町住民との交流会が開催された。交流会には、多くのIターン・Uターン者が参加し、地元のお母さん方が、ゆずや山菜、川がになど地元の食材で作った郷土料理や特産の雉料理を囲んで、ツアー参加者からは実体験した南予の印象や移住先としての感想について、地元の移住者からは移住を決めた動機や田舎の暮らしぶりなどについて発表があった。



滑床溪谷のトレッキング



地元住民との交流会

【4日目】

鬼北町出目の古民家「渡辺邸」を視察。渡辺邸はもともと醤油屋を営む商家。「古民家再生プロジェクト」により、150年の時を経てよみがえった商家の、広見杉や五十崎和紙などで彩られた癒しの空間を見学した。

最後に、成川溪谷休養センターで、うどん打ちを体験。「小麦粉500g、塩20g、水220cc」との説明を受け、

練り、足踏み、手延べ、裁断に挑戦。ツアー参加者は、田舎暮らし体験を十分味わった。



古民家「渡辺邸」の視察



うどん打ち体験

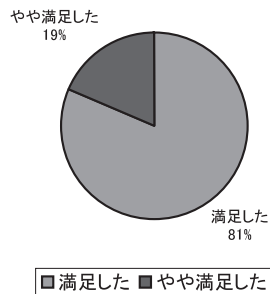
【参加者に対して行ったアンケート調査の結果】

11月と12月に行った2回のモニターツアーの参加者18名中16名から回答をいただいたアンケート調査の主な結果は、次のとおりである。

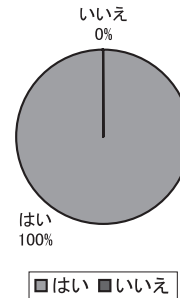
区分	内 訳	
男女構成	男性：6名	女性：10名
年齢構成	20～29歳：2名	30～39歳：3名
	40～49歳：3名	50～59歳：4名
	60～69歳：1名	70歳以上：3名
職 業	会社員：4名	自営業・自由業：4名
	主婦：7名	その他：1名
世帯構成	単身世帯	：2名
	一世帯（夫婦だけ）	：8名
	二世帯（親と子）	：6名
居住地	神奈川県：5名	東京都：3名
	大阪府：3名	茨城県：2名
	愛知県：1名	長崎県：2名

【調査結果の概要】

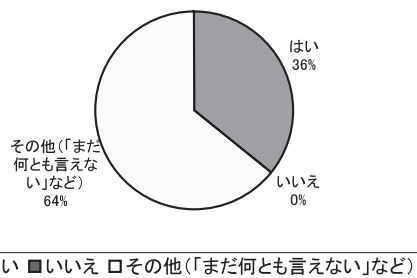
今回のツアーには満足できたか



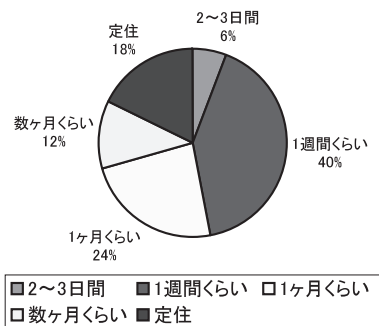
今回のツアーに参加して、愛媛・南予への親しみが高まったか



また移住する気持ちが高まったか



愛媛・南予に今後どれくらいの期間なら滞在したいか



【参加者の主な意見】

移住する気持ちは高まったか	<ul style="list-style-type: none"> 候補の一つとして考えたい。 関心は深まったが、一度だけではなく、何度か来てみたい。
ツアーに参加した感想	<ul style="list-style-type: none"> 移住の気持ちはあっても簡単には決断できないのが現状。 地元の暮らしを教えてもらい、南予の良さを実感した。 次回は長期滞在をしてみたい。 自分の地域に誇りを持っていた。

7 今後の取り組み

これまでの移住説明会や移住体験モニターツアーの結果を十分検証し、地元市町の受け入れ体制の一層の充実を図るとともに、来年度のモニターツアーや次のステップとしての長期滞在に結び付けていきたいと考えている。

また、全国で約690万人（平成12年国勢調査）が定年退職を迎える2007年問題は、労働人口の減少など社会経済に大きな影響を与えることが懸念される一方、団塊の世代という巨大市場と豊富な経験に対する期待も大きなものがある。

これら団塊の世代の地方への滞在や移住は、疲弊する地域を元気にすると期待されるとともに、田舎暮らしの経験のない団塊ジュニアにとっても、その地域が

親の住む第二のふるさととなることも注目すべきではなかろうか。

したがって、今後は、団塊の世代の誘致促進を強く意識しながら、

- ①生きがいや社会貢献といった目的意識を満たす提案（まちづくりや地域ボランティアへの参加等）
- ②環境にやさしく健康に配慮した提案（古民家を活用した長期滞在と温泉療養等）
- ③地域の資源を生かした提案（みかん摘みアルバイトやオーナー制度、古民家生活等）

など、地域ならではの特色ある取り組みを積極的にアピールし、地域に必要な人材・文化・技術等の流入促進を実現していきたいと考えている。